

- 1 単 元 きいて、きいて、きいてみよう（本時 6／6）
- 2 本時の目標
 - （1） 目的や状況に応じた「きく」という行為について考え、自分の生活に活かそうとすることができる。
 - （2） インタビュー活動を通して体験した4つの立場の「きくこと」について、整理してまとめることができる。
- 3 人権教育上の観点
 - ・ 異学年の児童、総合学習を通じた地域の方々と話をする機会においても、相手のことを理解して話をしっかりときくことができる力を身につけさせたい。（視点④）
- 4 準備・資料

教師：フラッシュカード、B紙（拡大Xチャート）、ペン、付箋、短冊

児童：ことばのひろば
- 5 指導過程

	学習活動	〔支〕支援 ・留意点 評価
つかむ (3分)	1 前時を振り返る。 ・ 話し手 ・ きき手 ・ 記録者 ・ 発表をきく人	・ 友達とのインタビュー活動を通して、聞くという立場が4つあったことを確認する。
	2 本時の学習のめあてを知る。 4つの「きく」について整理し、まとめよう	
深める (37分)	3 グループで話し合う。 （1）それぞれの立場で話をきいたとき、気をつけたことを書いた付箋をもとに、Xチャートを用いて、グループで話し合う。 〈認識の高まり場面1〉 思考法：分類・推論する （2）グループで話し合ったことを、学級全体で共有する。 〈認識の高まり場面2〉 思考法：分類・要約する	・ 話し合いを進めていく中で、同じ言葉や似ている言葉に注目させる。 〔支〕グループで話し合いをする中で、何度も出てくる言葉や意味の似ている言葉を探し、それらのことからどんなことが考えられるか話し合うよう声かけを行う。 〔支〕教師が意図的に、より話し合う立場を指定し、話し合いが深まるよう声かけをする。 ・ 話し合いの中で出たグループの考えを短冊に書かせ、黒板に掲示する。 ・ それぞれの立場において、気をつけたことを発表し終えたところで、「4つのきく」で似ていることや同じことを手がかりとさせ、「きく」ときに気をつけることをまとめさせる。 【関・意・態】 目的や状況に応じた「きく」という行為について考えようとしている。（話し合い活動）

ふり返る (5分)	4 本時の学習を振り返る。	本時で学習したことを国語科の学習だけでなく、日常生活や総合学習の取材活動などで積極的に使っていくことをおさえる。
--------------	---------------	--

6 反 省
7 高 評

＜本時で使用する思考ツール＞

